

# 平成10年度中間決算の概要

## 1. 需 要

当上半期のわが国経済を見ますと、経済の先行きに対する著しい不透明感から、個人消費は低調であり、設備投資も減少し、また、雇用情勢においても完全失業率がこれまでにない高さに上昇するなど、総じて景気は低迷状態が長引き、厳しい状況で推移しました。このような情勢を反映して、産業用需要は前年実績を大きく下回っておりますが、民生用需要は、夏場の気温が前年にくらべて高く推移し、冷房需要が増加したことから、前年実績を上回りました。

この結果、当上半期の総販売電力量は、718億キロワット時と前年同期にくらべて電灯は6.2%増加、電力は0.5%減少し、電灯電力合せて1.4%の増加となりました。

## 2. 供給力

供給力につきましては、原子力発電所の順調な稼動に加えて、奥多々良木発電所第5、6号機が営業運転を開始したほか、114.0%の出水率と豊水に恵まれたこともあり、期を通じて安定した需給関係を維持することができました。

## 3. 収 支

収支につきましては、収入面では、総販売電力量は増加したものの、本年2月に実施した電気料金引下げによる影響により、電灯電力料収入が減少したことなどから、経常収益合計は前年同期を262億円下回り、1兆3,195億円となりました。一方、支出面では、燃料価格の低下により汽力発電用の燃料費が減少したことや経営全般にわたる徹底した効率化を推進し、極力諸経費の節減に努めました結果、経常費用合計は前年同期にくらべて201億円減少し、1兆2,569億円となりました。以上の結果、中間利益は257億円となりました。

なお、中間配当につきましては、本日開催の取締役会において1株につき25円と決定いたしました。

以 上